



Topics

「リノベーションまちづくり関係者交流会」を開催

まちづくり実践者と支援機関(市町、商工団体、金融機関等)を対象とした交流会を12月2日(火)に沼津市内、9日(火)に浜松市内で開催しました。



まちづくり実践者と支援機関の関係構築や、双方の課題解決のきっかけを作ろうと県が初めて開催した「リノベーションまちづくり関係者交流会」。2日間で延べ48団体64人(沼津開催:28団体37人、浜松開催:20団体27人)が参加しました。

交流会では、「まちあるき」「実践者からの講演」「意見交換会」を行い、このうち「意見交換会」では、「支援機関がリノベーションまちづくりを進めるまでの課題」や「実践者から支援機関への要望」などについて話し合われました。

◇支援機関の課題に対する実践者の回答◇

課題	回答
店舗兼住宅だと貸してもらえない	草薙カルテッド・山本洋平氏(静岡市) 『皆のため、まちのために』と言っても響かないが、『子や孫のためにまちを良くしよう』という方向性を持ちかけると話が上手いく。相手のメリットとなる話を提示することが必要。
まちづくりプレイヤーがない	thinX大端将氏(浜松市) 何万人も人がいて、プレイヤーがないのはあり得ない。広報誌など強い媒体を上手く活用して探せば必ず見つかる。

◇実践者からの要望◇

実践者	要望
吉原マネジメントオフィス 鈴木大介氏(富士)	不動産オーナーに対し「まちのためなら安く貸す」など、まちに関わる一員と認識してもらえるよう「オーナー啓発」をして欲しい。
HACK 高林健太氏(浜松市)	公共施設・公共空間の「利用や指定管理の条件等の緩和」をしても良いのでは。行政が許容・緩和していくことでプレイヤーが発掘されるはず。

講演では『実践者が支援機関とどう関わってきたか』の視点で各開催地の実践者が登壇。



沼津会場の様子



浜松会場の様子

沼津会場で講師を務めた鈴木智博氏（REIVER）は、リノベーションスクールを機に東京から移住してきた経歴について触れた上で、地元信用金庫のファンドや市との協働事業で自らの活動がより展開していったと説明。

また、浜松会場で講師を務めた柳本茉希氏（浜松家守舎キュウ）は、「支援機関は年度で動くが、プレイヤー側は来月などの短期的な時間軸で動いている。まちづくりの現場では人同士の繋がりが重要だが、支援機関と話す時は数字や計画の達成度が求められる」などとそれぞれの立場の違いを伝えた上で、「とにかく現場に出て対話をしたい」として、お互いを理解しながら連携してまちづくりを進める大切さを語りました。

終了後のアンケートでは
「民間と行政の考えのずれや、求めるものなど、忌憚のない意見が聞けた」
「各市町の率直な意見が聞けたこと、県内のいろんな場所で、まちを良くしていくという行政の方がたくさんいるとわかり、県内の今後のリノベーションまちづくりの動きが楽しみになった」
など、交流会に対して好意的な声が参加者から寄せられました。

県では今後、1年の総括の場として「しづおかリノベーションまちづくりフォーラム」を来年3月11日（水）に開催します。